

大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 神戸大学

【構想の名称】(選定年度23年度 タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program)

東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】神戸大学、復旦大学及び高麗大学校がコンソーシアムを構成し、三大学が有する世界レベルの大学院教育を通して「東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家」を養成することを目的とする。

〈グローバル人材像〉①自然災害時のみならず経済危機、社会情勢危機時におけるリスク・マネジメントに関する応用性のある専門的な知識とスキル、②三カ国が拠点となり日本・中国・韓国に関する経済・政治・人的資源・開発運営を含む社会科学全般の専門性、③自国語に加えて英語と現地語による政策・実施支援ができるレベルのコミュニケーションスキルを習得し、④異文化を理解した上で、公共機関や国際機関、NPOにおいて世界の危機時における問題の分析、政策策定を主導し、さらに災害の現場でチームの一員としてチャレンジ精神をもってグローバルに活躍できる人材。

【構想の概要】本プログラムでは、神戸大学大学院国際協力研究科(GSICS)、復旦大学国際関係・公共事務学院(SIRPA)及び高麗大学校国際大学院(GSIS)が協働し、修士課程の学生の交換留学ならびにダブルディグリープログラムを通じて、将来の東アジア地域のみならず、世界レベルで活躍するリスク・マネジメント専門家の養成に向けた質の高い教育を展開する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 三大学の教職員で形成されるコンソーシアム運営委員会の設置・定期会合の開催

○ 単位の相互認定や成績管理、単位授与に至るプロセスについての協議

コンソーシアム運営委員会を開催、三大学間での単位算定方式について協議し、原則合意済みである。これにより、神戸 - 復旦 - 高麗の三大学でのダブル・ディグリー取得を含む学術交流の基盤も整備されている。

学生交流協定・ダブルディグリー協定が高麗大学校国際大学院(GSIS)、復旦大学国際関係公共事務学院(SIRPA)との間で既に締結され、細則なども整備済みである。

なお、平成26年度のダブル・ディグリー学生は、派遣7名(6名は学位取得済み、1名は学位取得見込み)、受入5名(全員学位取得済み)の合計12名である。



東北フィールドトリップ

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況



日中韓三大学共同国際シンポジウム (タイ・バンコク)

○ **国際シンポジウムの開催**：日中韓三大学共同国際シンポジウムを、平成24年11月に上海、平成25年11月にソウル、平成26年11月に神戸にて開催した。平成27年度は、11月にタイ・バンコクで開催した。

○ **リスクマネジメント関連講義の開設、サーティフィケートの発行**：プログラム関連講義として、「Risk Management」など3科目を開設し、並行して関連セミナーを開催して(平成24年度6回、平成25年度5回、平成26年度8回、平成27年度7回)教育プログラム内容の充実を図っている。また、プログラム修了の証明として、サーティフィケートを三大学共通のフォーマットで発行している。

○ **コンソーシアム以外の大学との調査・交流の実施**：中国・北京大学、韓国・ソウル大学校等について調査、交流を通じ、同プログラムに関連する他大学の動向の調査を進めている。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ **日本人学生(※外国籍3名を含む)の派遣**

平成27年度、神戸大学から復旦大学に交換留学生1名、高麗大学校に交換留学生2名を派遣した。

○ **外国人留学生の受入れ**

平成27年9月以降、復旦大学から交換留学生4名、高麗大学校からダブルディグリー生3名、交換留学生1名の受入を行った。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	0	C3、K5	C5、K5	C6、K4	C4、K4
中国(C)での受入	0	J3、K4	J4、K7	J5、K8	J1、K4
韓国(K)での受入	J1	J3、C4	J5、C6	J6、C5	J2、C0

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ **「キャンパスアジア室」による学生支援**：中・韓・英の各国での教育研究経験を有する専属スタッフが常駐する「キャンパスアジア室」を設置し、研究上、生活上の両面からのサポートを、多言語対応できめ細かく行っている。

○ **事前教育カリキュラムの整備**：受入・派遣留学生のため、語学研修、研究計画作成支援等の事前教育プログラムを実施している。なお、各学生から学習ニーズの聞き取りを実施し、カリキュラムに反映させるシステムも整備済みである。

○ **プログラム拡大への環境整備**：本プログラムの実施に向け、学生募集範囲の博士後期課程への拡大、日中韓トライアングル交換留学の実施、教員連絡会議の定期的開催などに向けた三大学間の準備が進められている。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開・成果の普及

○ **教育内容の可視化・ホームページの多言語化**(<http://www.edu.kobe-u.ac.jp/gsics-cp-asia/index.html>)：パンフレット及びニュースレターを作成するとともに、広報及び成果公表の基盤として、ホームページを日英中韓四言語対応としている。

○ **第5回外部評価委員会の開催**：平成28年2月、外部評価委員会を開催し、評価委員や高等教育の専門家から大学の国際化に向けたアジア・欧米での実践についての知見を共有し、プログラムに対する評価委員からのフィードバックを受けた。